

編集後記

この事例集を作成するにあたり、県立学校16校の図書館を拝見し、担当の方から話を伺いました。取材させていただいた学校ばかりでなく、多くの学校で工夫ある取組が地道になされていることが分かりました。学校図書館の運営上のアイデア、苦労、悩みなど、様々な話を聞いた中から、担当の方の学校図書館にかける熱い思いを感じた言葉を、ここに御紹介します。

学校図書館の担当の方々の言葉

- ライバルは街の本屋さんです。本屋さんに行くと、本の紹介の仕方やディスプレイを見て、図書館の参考にしています。
- 本の紹介の仕方を工夫すると、生徒が手に取ってくれるかどうか楽しみになります。借りてくれると作戦の成功が嬉しくなります。
- 本を借りたまま返さないでいる生徒にも、「借りてくれてありがとう。でも、あの本は次に借りたい人が待っているの、早く返してもらえると助かるわ。」と、図書館が嫌いにならないように優しく声をかけるようにしています。
- 図書館の仕事はたくさんあります。私は1日に3回館内を見回って、書棚を点検しています。

また、取材の際に居合わせた生徒から聞いた話の中に、次のような言葉がありました。

生徒の言葉

- 中学校のときにはあまり本が好きではありませんでしたが、高校に来たら本が好きになりました。高校の図書館は一日中開いているので、よく利用するようになりました。(男子生徒)
- 高校の図書館の本はお堅い本ばかりだと思っていたら、生徒の声を聞いて読みたい本を買ってくれるので、よく利用しています。(男子生徒)
- 新刊がすぐに入るので「新着本」のコーナーをよく見に来ます。(女子生徒)

「読書離れ」という言葉を耳にしますが、高校生になって本好きになったという生徒の言葉も耳にしました。図書館に居合わせた生徒だから本好きには相違ないのでしょうか、担当者の努力によって本好きの生徒が育っている様子をうかがい知ることができました。

取材に御協力いただいた各校からは、たくさんの貴重な資料と示唆を御提供いただきました。改めて御礼申し上げます。紙幅の都合で、それらのすべてを紹介することはできませんので、御要望があれば総合教育センター研究調査部に御相談ください。また、冊子と同じ内容を総合教育センターのホームページから発信しております。この事例集が、児童生徒の成長と学校図書館の活性化にお役立ていただけますことを祈念します。

栃木県総合教育センターのホームページのURL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

栃木県総合教育センター研究調査部